・楽しく ・見て ・学ぶ
MUSEUM NEWS
博物館ニュース
徳島県立博物館
No.81

サンチャゴ・デ・コンポステラ大聖堂

この聖堂は、キリスト教の3大聖地の一つであるサンチャゴ・デ・コンポステラ（スペイン）にあります。キリストの 12 使徒の一人である聖ヤコブ（スペイン語名サンチャゴ）の墓が納められていることから、11 世紀以来、ヨーロッパ中から、ここを目指す人たちによる巡礼が行われました。

企画展「聖地★巡礼」では、フランスからスペインへと旅するサンチャゴ・デ・コンポステラ巡礼について紹介します。

（歴史担当：長谷川賢二）

Culture Club

モノに神霊を宿らせる話

ーいわゆる「依代」についてー

磯本宏紀

突飛なタイトルですが、私たちの身の回りにも「モノに神霊を宿らせる」例は意外にたくさんあります。神霊を宿らせるモノのことを、神霊側の視点から「依代」、人間側の視点から「招代」と呼ぶことができます。これは、100年近く前に折口信夫により設定された概念です。現在ではよく使われる用語となっていて、どこかで耳にした方も多いかと思います。大木、巨岩、祠、鏡、幣、神輿、山車、標山、笠、傘、燈籠、目籠、人形などさまざまなものが「依代」とされます。そして、神霊を迎えるため、あるいは送るために祭礼の際につくられるのが特徴です。

では、具体的にどのようなものなのか、ここでは祭礼の中から4つの事例をあげて見てみることにしましょう。

①海陽町竹ヶ島の左義長（海陽町）

左義長も「依代」の1つです。太く長い竹を中心にすえ、根元にシダを巻き、三角形の紅白の短冊を取り付けた左義長のヤマが2つ、小正月につくられます。左義長でつくるヤマも神霊の宿るモノの一つといえます。これに祭壇がつくられ、神酒と鏡餅が供えられ、翌早朝左義長に火をつけて焼く（はやす）ことで、神送りとするからです。また、その残り火は神火として持ち帰り、その火で焼いた餅を食べてその年1年の健康を祈念します。

図1　海陽町竹ヶ島の左義長（2010年1月14日撮影）

②金丸八幡神社の宵宮神事のおんじゃく（東みよし町）

祭りの場に神を招くため、「おんじゃく」という「依代」を使う行事があります。秋祭りの前夜、10月14日夜に行われる宵祭りの際、丸い木板に五色の短冊を取り付けた「おんじゃく」と呼ばれるものを、社殿前に縄で吊り下げます。これを、神職、舞人が縄を引いて前後に揺り動かし、勢いをつけて社殿内に飛び込ませるというのが「おんじゃくの行事」です。秋祭りに際し「おんじゃく」に降神させ、社殿に入れるという意味があります。

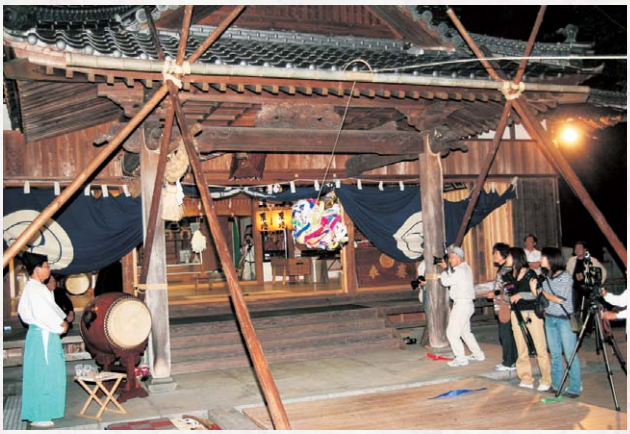

図2　東みよし町金丸八幡神社宵宮神事のおんじゃく（2010年10月14日撮影）

図3　図2のおんじゃくを引く神主（2010年10月14日撮影）

③津田の盆踊りの藁人形（徳島市）

徳島市の津田の盆踊りの最後に行われる精霊送りでは、藁人形を死者の霊の「依代」として海に流します。「子持ち組」は子に見立てた人形を背負い、踊りながら町内を巡ります。最後の精霊送りの場面では、海に向かって送り火を焚き、供物を供え、その脇に藁人形を置きます。その後、夫が沖で遭難したという設定のもと、子持ち組の女性が「おとう（父）もんてこーい」と泣きながら死んだ夫を呼びます。輪踊りが始まり、踊りの後、最後に藁人形が海に流され、踊りの一行はふり返らずに引き返します。

図4　徳島市津田の盆踊りでの精霊送り。送り火を焚いた脇に藁人形をおき、供物を供える。「子持ち組」が子に見立てた人形を背負い、沖で遭難した夫を呼ぶ場面（2010年8月15日撮影）

図5　図4の精霊送り用藁人形

④北木島の雛流し（岡山県笠岡市）

旧暦３月３日に海岸に出て、紙雛人形を乗せた小舟を流す行事です。現在は、観光イベント化されていますが、自らの病苦を司る神霊を人形にのり移らせ、和歌山市にある淡嶋神社に向けて海に流すというものです。この日は、北木島にある淡嶋社の小祠の祭りの日でもあります。

以上4つの事例をモノに神霊を宿らせる「依代」という共通項で括ってみました。いずれの「依代」も、一時的に神霊を呼び寄せ、あるいは媒介するモノということができます。ただし、それぞれ少しずつ役割がちがいます。①は神霊（歳神）を送るために、②は神霊を招き入れるために、③は神霊を呼び寄せ、それにのせて送るための「依代」です。④は病苦を司る神霊をのり移らせた紙雛人形を、身代わりにして流す「依代」とします。また、③と④の場合、人形を「依代」としています。人形は、個人の祈りの対象として、より身近な神霊の「依代」となっているようです。　（民俗担当）

図6
笠岡市北木島の雛流し（2010年4月11日撮影）
和歌山市の淡嶋神社に流れ着くよう、海に紙雛人形を乗せた舟を流す。

図7
舟に乗せられた紙雛人形（2010年4月11日撮影）

文化の森総合公園開園20周年記念

企画展　聖地★巡礼　自分探しの旅へ

世界各地で、信仰にもとづいて神聖とされる場所（聖地）を目指す参拝や巡礼がさかんに行われています。私たちに馴染（なじ）み深い四国遍路も、そうした巡礼の一種です。これら巡礼の体験のもつ意味とは何でしょうか。

この企画展では、主としてキリスト教３大聖地の一つであるサンチャゴ・デ・コンポステラ（スペイン）への巡礼（巡礼路が世界遺産に登録されています）について、映像を駆使して紹介します。あわせて四国遍路なども取り上げ、聖地や巡礼の意味を探ります。今、多くの人を惹（ひ）きつけている四国遍路の文化的な価値を、広い視野からとらえ直す機会にもなることでしょう。

会　期　2011年2月11日(金／祝) ～3月21日(月／祝)
主　催　徳島県立博物館・国立民族学博物館
　　財団法人千里文化財団
会　場　企画展示室・多目的活動室
休館日　月曜日（３月21日は開館）
観覧料　一般200円／高校・大学生100円
　　小・中学生50円
　　※20名以上の団体は２割引
　　※土・日・祝日は高校生以下無料
　　※学校教育による利用は無料

展示構成

１　サンチャゴ・デ・コンポステラ★巡礼
２　さまざまな聖地と巡礼
　　①霊山　恐山　②四国遍路

巡礼手帳

サンチャゴ・デ・コンポステラへの道標

サンチャゴ・デ・コンポステラを目指す巡礼者
ミッシェル・ラヴェドリン
（展示の映像の主人公）

サンチャゴ・デ・コンポステラ大聖堂

サンチャゴ・デ・コンポステラ大聖堂の聖ヤコブ像

トロトロ石器

「トロトロ石器」というちょっと変わった名前で呼ばれる石器があります。名前の由来は、打ち欠いた後、表面を磨いて〝トロトロ〟になっているものが多いからです。異形部分磨製石器という呼び名も持っています。一見、石鏃（せきぞく）（やじり）のような形をしていますが、先端はとがらずに、丸くなっています。石鏃よりも分厚く、突き刺したり切ったりするのには不向きで、石鏃とは違った用途に使われたものと考えられています。

トロトロ石器は、ほとんどのものがチャートと呼ばれる石材を使ってつくられています。そのため、出土する場所もチャートの産出地の近くが中心となり、四国では高知県から多く見つかっています。しかし、なぜか一つの遺跡からは、単独またはごく少数でしか見つかりません。約 8,000 年前の縄文時代早期、押型文土器と呼ばれる土器が使われていた時期に多く見つかります。徳島県では、吉野川中流域の加茂谷川５号岩陰遺跡（東みよし町）と那賀川中流域の古屋岩陰遺跡（那賀町）から押型文土器（図１）が出土しています。しかし、これらの遺跡からはトロトロ石器は見つかっていません。

図２は、那賀川中流域の鮎川西ノ宮遺跡（図３）と陰谷北遺跡（いずれも那賀町）で採集された２点のトロトロ石器です。どちらも、チャートでつくられており、右は長さ 4cm、厚さ 0.9cm あります。磨いた跡はまったくないのですが、形はトロトロ石器そのものです。どちらも先端部や脚部が欠けているので、ひょっとすると製作の途中で失敗してしまったものかも知れません。徳島県内では、この２点の他に、吉野川市鴨島町から１点見つかっているだけです。

最近、徳島県でも縄文時代の遺跡の発掘調査例が増えてきましたが、多くは後期や晩期の遺跡で、草創期や早期、前期の遺跡はまだほとんど見つかっていません。

トロトロ石器と押型文土器とがいっしょに出土する遺跡を早く発見したいものです。

（考古担当：高島芳弘）

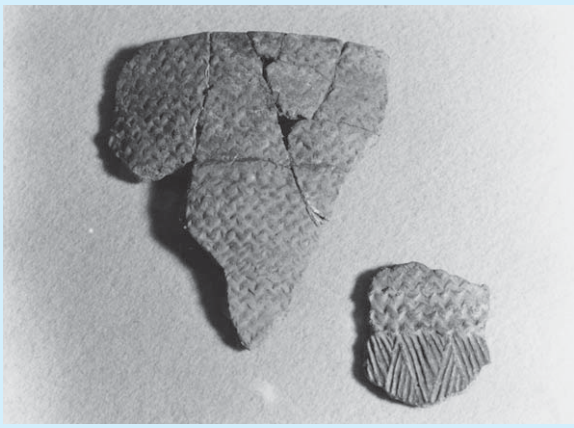

図1　押型文土器（加茂谷川5号岩陰遺跡）

図2　トロトロ石器
（左：陰谷北遺跡・右：鮎川西ノ宮遺跡）

図3　空から見た鮎川西ノ宮遺跡

野外博物館
特定外来生物に注意!!　セアカゴケグモとアルゼンチンアリ

今年の夏、徳島県で特定外来生物のセアカゴケグモとアルゼンチンアリが相次いで発見されました。もともとその地域にいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入ってきた生き物のことを『外来生物』と言います。外来生物のうち、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、または及ぼすおそれがあるものの中から『特定外来生物』が指定されます。それらについては、飼育、栽培、保管及び運搬、輸入、野外へ放つ、植える及びまくことが原則的に禁止されています。ここでは、徳島から新たに見つかった２種の特定外来生物にスポットを当てたいと思います。

セアカゴケグモ

2010年７月末、鳴門市里浦町の大手海岸から毒性の強いセアカゴケグモが発見されました（図１）。徳島県からは初めて、四国からは香川県坂出市・丸亀市に次いで３箇所目の発見です。

本種は、1995年に大阪府高石市で発見された後、近畿一円に広まりました。本来の分布域は熱帯アジア、オーストラリアなどですが、これらの地域から船の積み荷やコンテナに付いて日本へ侵入したと考えられています。日本での生息場所は、車や人の出入りがある駐車場周り、側溝、コンクリート製のブロックや建築資材のすき間などです。大手海岸にはセアカゴケグモが好むとされる環境が少ないものの、よく調べてみると発泡スチロールや堤防の水抜き穴、防砂用ネットの柵などに潜んでいる様子が確認されました。攻撃的なクモではありませんが、万が一咬まれた場合、局所の痛みや発熱などの症状が出るようです。数時間から数日で症状は軽減しますが、医療機関へ相談することをおすすめします。

図１　卵のうを抱えるセアカゴケグモのメス

アルゼンチンアリ

2010年９月に徳島市津田海岸町にてアルゼンチンアリの生息が確認されました（図２）。四国では初めての発見です。1990年代初めに中国地方で発見され、港の周辺など海外との接点がある場所を中心に徐々に分布が拡がっていきました。

アルゼンチンアリはその名のとおり南米原産ですが、世界各国へ侵入し猛威をふるっています。屋内に侵入して住民の日常生活に支障をきたすほか、侵入・定着している地域では在来のアリ類を駆逐してしまうなど生態系への影響が懸念されているのです。体長が2.5～３ミリ程度と小さい上に、一見すると他のアリとよく似ているため、一般の方が本種を見分けるのは容易ではありません（図３）。また、人への直接的な被害がない場合、注意が散漫になりがちです。しかし、IUCN（国際自然保護連合）の「世界の侵略的外来種ワースト100」に選定されていることからも、本種がいかに深刻な害虫であるかが伺えます。

図２　アルゼンチンアリの行列

図３　アルゼンチンアリ（側面）

2010年は第10回目の生物多様性条約締約国会議（COP10）が行われた年です。今まさに世界中の人々が生き物に注目している時です。今一度、身の回りの生き物たちに目を配ってみてはいかがでしょうか。　（動物担当：山田量崇）

Q and A　バナナが光るって本当ですか？

はい、光ります。ただ、ホタルのように自分で光を出すわけではありません。

バナナの実は熟すると黄色くなりますが、さらに熟していくと黒い点ができます（図 1B 矢印）。それはシュガースポットと呼ばれ、甘くなった目印とされていますが、紫外線を当てるとその周辺だけが蛍光（けいこう）を発して光ります（図 1D 矢印）。

紫外線は太陽や蛍光灯などいろいろな光に含まれてますが、それらの光では明るすぎてバナナが光っているのはわかりません。そこで、暗い場所で紫外線を発生するライトの光を当てます。そのライトは一般的にはブラックライトと呼ばれて売られていて、最近では、LED のブラックライトも入手しやすくなっています。100 円ショップでは簡易のブラックライトが「マジックライトペン」などの商品名で売られています。

バナナのシュガースポットの周辺が紫外線で光るのは、皮に含まれているクロロフィル（葉緑素）が分解する途中で、紫外線で蛍光を発する物質になると言われています。シュガースポットの黒い部分は、完全にクロロフィルが分解してしまった後なので、光りません。よく観察してみるとバナナの柄に傷がついたところも線状に光っていました。

モンシロチョウに紫外線を当てると、雄と雌で羽根の模様がまったく違って見えます。人の目では見られない紫外線を昆虫は見ることができ、モンシロチョウもそうした紫外線による光り方の違いで雄と雌を見分けているようです。また、紫外線をいろいろな鉱物に当てると普通の光とは違った色に見えます。たとえば、博物館に展示してある硫黄（いおう）に紫外線を当てると、黄色の硫黄がオレンジ色に光って、とてもきれいです。

このように、身の回りのいろいろなものに紫外線を当ててみると面白いかもしれません、なお、観察の際には危険ですので、ブラックライトの光は絶対に直接見たり、目に当てたりしないでください。

（植物担当：小川誠）

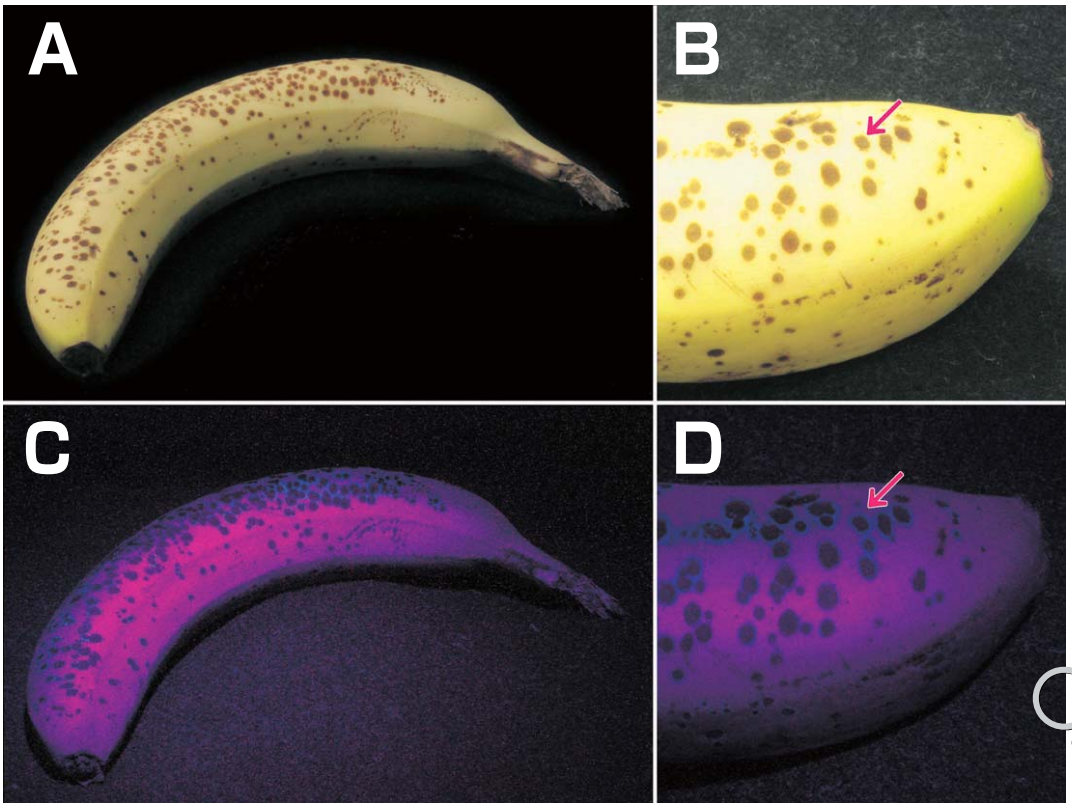

図1　通常光で撮影したバナナ (A) とその拡大 (B)　紫外線を当てて撮影したバナナ (C) とその拡大 (D)

1月から3月までの博物館普及行事

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象（定員）	備考
歴史体験	ミニ青銅鏡を鋳造しよう	1月23日(日)	13:30～16:30	要	小学生から一般(20)	材料費 300 円（大学生・一般）
	トンボ玉をつくろう	2月20日(日)	13:30～16:30	要	高校生以上(20)	材料費 100 円（大学生・一般）
歴史散歩	眉山山麓寺社めぐり（東麓編）	1月16日(日)	10:00～12:00	要	小学校高学年以上(20)	現地集合
	古墳見学②（穴吹）	3月13日(日)	10:00～17:00	要	小学生から一般(30)	現地集合
室内実習	アンモナイト標本をつくろう	2月27日(日)	13:30～15:30	要	小学生から一般(20)	材料費 300 円（大学生・一般）
	ミクロの世界ー電子顕微鏡で化石を見よう!	3月 6日(日)	13:30～15:30	要	小学校高学年以上(10)	
	落ち葉の中の生きものたち	3月20日(日)	13:30～15:30	要	小学生から一般(20)	
野外自然かんさつ	冬の植物と昆虫	2月 6日(日)	13:00～15:00	要	小学生から一般(20)	
ミュージアムトーク	2つのヤマをつくる左義長	1月30日(日)	13:30～15:00	不要	小学生から一般(50)	
	みんなで調べたタンポポの分布 タンポポ調査・西日本 2010 の結果より	3月27日(日)	13:30～14:30	不要	小学生から一般(50)	
部門展示関連行事	部門展示「館蔵の鏡と古銭」展示解説	2月13日(日)	14:00～14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	部門展示「西日本のタンポポ」展示解説	3月27日(日)	15:00～15:30	不要	小学生から一般	観覧料必要

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。

☆ 2010 年の友の会行事を紹介します！☆

6月22日「チリモンを探そう」

チリモンとはチリメンモンスターの略で、チリメンに入っているシラス以外のものをさします。
参加者は、虫眼鏡や双眼実態顕微鏡で楽しく探していました。標本にして持ち帰りました。

7月17日「地引き網を引こう」

阿南市北の脇海岸で地引き網を体験しました。
たくさんの魚を網で引き、捕れた魚を観察してから、みんなで味わいました。

8月7日「文化の森サマーフェスティバル」に参加

「文化の森サマーフェスティバル」においてシンボル広場でイベント開催。
型抜き・スーパーボールすくい・水鉄砲など懐かしい遊びを再現しました。

この他にも楽しい行事をたくさん行っています。

普及行事のお申し込みについて

◎１枚の往復はがきには、１行事だけにしてください。
◎行事日の１カ月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入しておいてください。
◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳しいことは当選された方にお知らせします。
◎原則として、参加費は無料です。

往復はがき記入例

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
50 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館 普及課	何も書かないでください	50 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の行事名 2.参加希望者全員名(学年) 3.住所 4.電話番号

希望の行事を選ぼう。

※お問い合わせは、徳島県立博物館 普及課へ（電話 088 - 668 - 3636）

発行年月日 2010年12月1日
編集・発行 徳島県立博物館 〒770-8070 徳島市八万町向寺山 TEL088-668-3636 FAX088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp